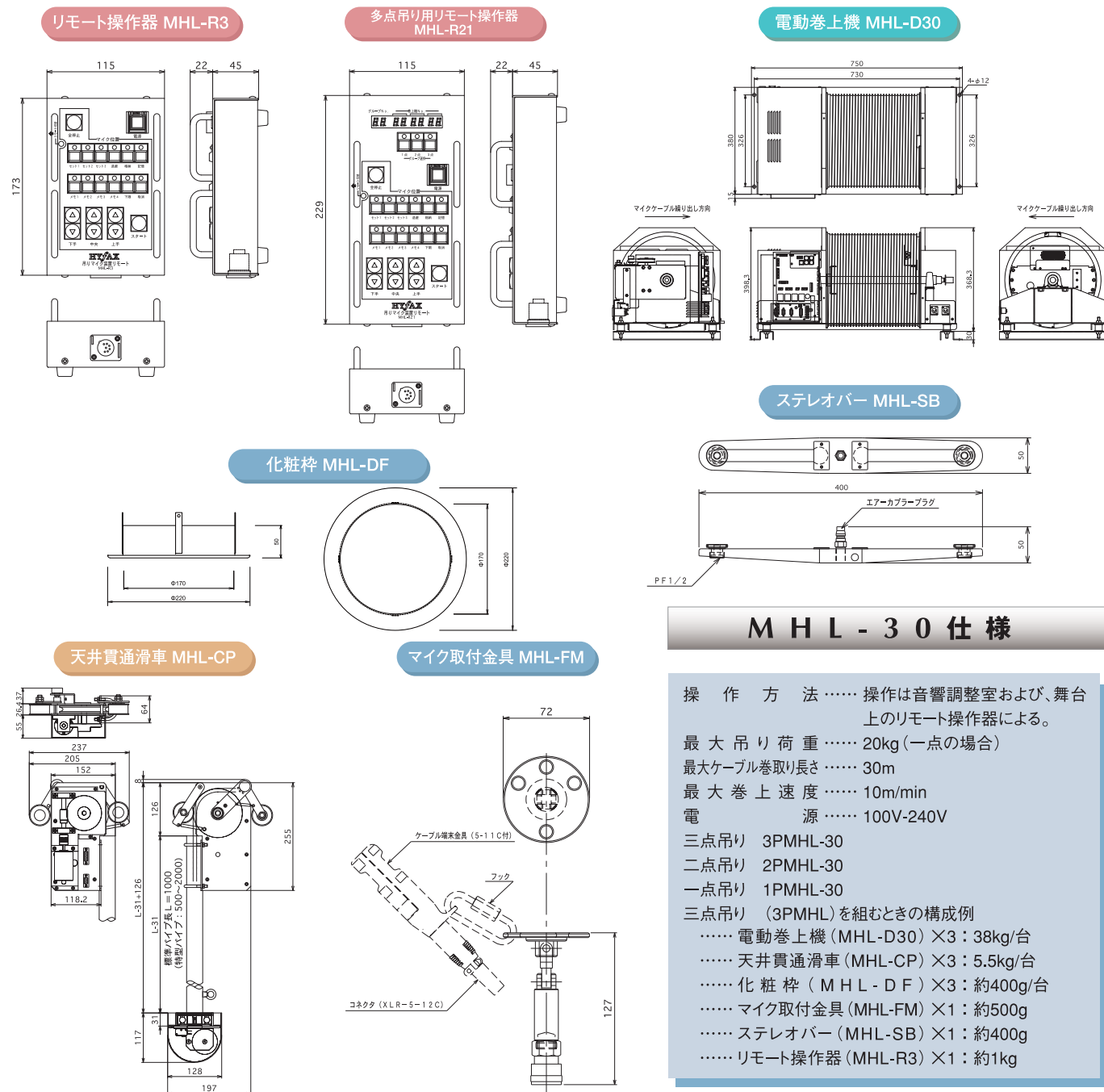
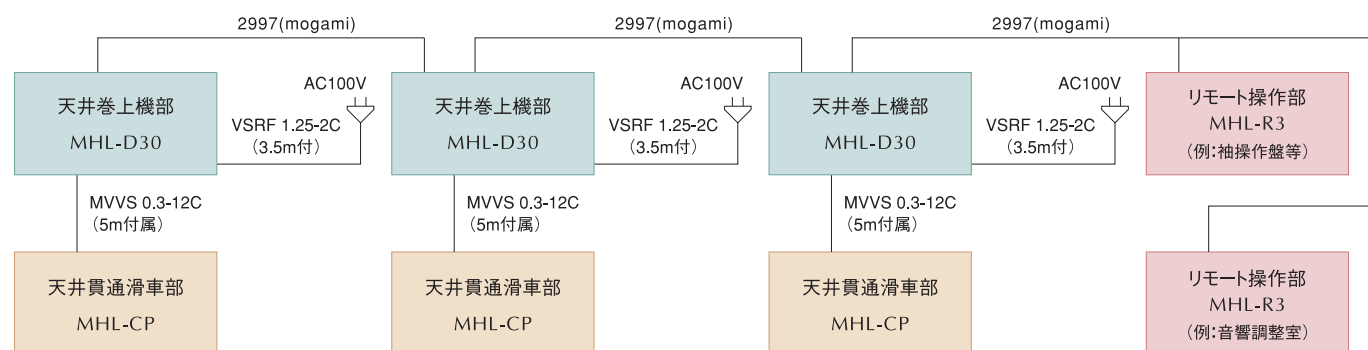


MHL-30 外形図



吊りマイク装置系統図



●本カタログの仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハサウンドシステム株式会社
YAMAHA SOUND SYSTEMS INC.
<http://www.yamaha-ss.co.jp>

本社 東京都中央区日本橋崎町41番12号 TEL(03)5652-3600(代)FAX(03)5652-3927 〒103-0015
蛸殻町事業所/仙台営業所/名古屋営業所/大阪営業所/福岡営業所

安全に関するご注意

●ご使用の際は、「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してご使用ください。

YAMAHA SOUND SYSTEMS INC.

電動吊りマイク装置

MHL-30

Microphone Hanging System

特許取得済
特許第3002662号

モーター部にCPUを搭載、7ポイントの位置を3次元でメモリー。
仕込み時間の短縮、ハイクオリティのレコーディング。



ヤマハサウンドシステム株式会社

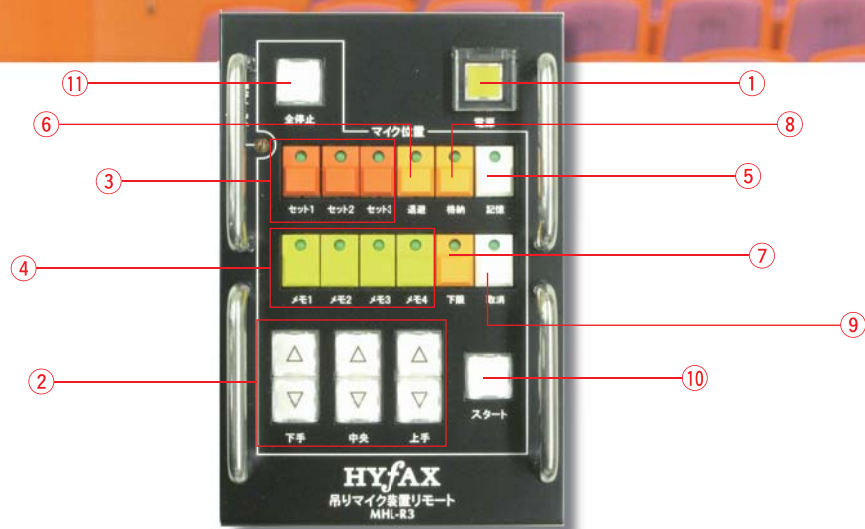
安全設計、高信頼性、仕込みのしやすさを実現した 電動吊りマイク装置。さまざまな空間の上部から 高精度の集音を可能にします。

電動吊りマイク装置は、マイクの位置を自由に動かし集音時の直接音と間接音のバランスを簡単に変えることが可能です。また、上部からの集音により、通常のスタンド式マイクでは得られない残響感のある集音が実現できます。ケーブルとスタンドをセッティングする必要がないため、観客にスタンドを倒させる危険性もなく、安全面、操作面、制御面等あらゆる面において充実した装置です。

リモート操作器

わかりやすさと使いやすさで、
あらゆるニーズに対応

リモート操作器は、舞台袖と調整室など2箇所を設置することが可能です。持ち運びができるため、客席からの操作も可能です。固定プリセットが3つ、ユーザープリセットが4つあります。



① 電源リモートボタン

システム全体の電源を1台のリモート操作器から制御できます。2台のリモートが接続されている場合、電源を入れたリモートが操作可能となり、ほかのリモートは操作禁止の状態で立ち上がります。

② マニュアル操作ボタン

希望のケーブルに対応するボタンを押すことによりマニュアルでケーブルの昇降を行います。3点吊りの場合、下手、中央、上手のボタンを押し、マイク位置を調整します。

③ セットボタン

3箇所の基本的なマイク位置を設定しておくことができます。これは納入時に施工業者が定めるもので、一般のユーザーが変更することはできません。

④ メモボタン

任意のマイク位置を記憶することが出来ます。4箇所まで記憶することが出来ますので、あらかじめ催し物にあった位置を簡単に呼び出すことができます。

⑤ 記憶ボタン

メモボタンへの記憶を行います。任意の位置で記憶ボタンを押しながらメモボタンを押すことでその位置を記憶します。

⑥ 退避ボタン

吊マイクを組んだ状態で巻き上げることで一時的に上方へ退避させます。催し物の内容によりマイクが邪魔になった場合、限界まで巻き取ることができます。これは納入時にホールに合わせて施行し定めるもので、ユーザーが変更することはできません。

⑦ 下限ボタン

吊マイクを組む時、ケーブルを下ろす時に使用します。本装置ではケーブルが床に着いてもさらにケーブルを送り出すことができるので、簡単に吊マイクを組むことができます。送り出すケーブルの長さは納入時にホールに合わせて施行し定めるもので、ユーザーが変更することはできません。

⑧ 格納ボタン

吊マイクを解いてケーブルを格納する際使用します。これによりケーブルを完全に巻き取ることができます。

⑨ 取消ボタン

各種操作のキャンセルを行うボタンです。

⑩ スタートボタン

昇降のスタートをします。このボタンを押さないかぎりプリセット動作は行いません。

⑪ 全停止ボタン

セット、退避、収納、メモ、下限ボタンに記憶された位置に移動中、このボタンを押せば直ちに停止します。

リモート切替ボタン

リモート操作器を2台使用する場合、側面にあるリモート切替ボタンを押し込むことで、自分のリモートが使用可能になります。

リモート接続用コネクター

(XLR-7-32同等)

安全設計

「懸垂物安全指針・同解説書」に 準拠した安全装置

天井巻上機には、過巻防止装置、過負荷防止装置、過走防止装置などの安全機能が装備され、他にも安全に関し、懸垂物安全指針に重きをおいた、設計がなされています。

天井巻上機

ケーブル巻き上げ長30mで 大ホールへの余裕の対応



吊りケーブルに外部より過大な加重がかかった場合のケーブルの切断事故等を想定し、機械式トルクリミッターの作動により、あるテンション以上になるとケーブルドラムがスリップ

ハイクオリティと安全設計で、幅広い用途と場所に対応。

します。間違っても他の吊りものが降りてきても、ケーブルを切ることなく下降しますので操作ミスによる事故を未然に防ぎます。ケーブルの巻き上げ長は最大30mになり、大ホールでの使用にも余裕をもって対応できます。また、ドラム1巻が30分ありますのでケーブルが絡まる等の事故も未然に防ぐことができます。

3種類の過負荷防止装置 突き上げ防止装置等による 安全設計の実現

3点吊りはほとんどプロセニアムアーチ部分にかかるような位置に取付けられます。この位置では、照明バトンが3点吊りのエリアとクロスする場合があります。3点吊りを構成している時に、誤操作などにより照明バトンが降ろされる事がない様に、3点吊りから照明バトンにインターロック*をかけ、照明バトンの動作を禁止します。

*但し、バトン機構にインターロック機能があり、それと接続した場合。

CPU制御

高精度、高信頼性を実現

CPU制御により複数のマイクポジションを記憶、スロースタート、スローストップなど高精度なコントロールが可能となりました。



天井貫通滑車

天井貫通滑車部に ケーブル繰り出し装置を採用

天井貫通滑車にケーブル繰り出し装置がついており、天井のケーブルに常にテンションがかかるためケーブルが絡まる心配がありません。また繰り出し装置を採用することにより、従来の錘によるテンションは必要ありません。従来のマイク吊り金具の2.6kgに比べ、わずか500gで駆動することが出来ます。



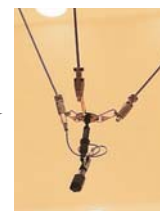
従来の吊りマイク装置とMHL-30の違い

1 マイク吊り金具の軽量化

今までの重さ2.6kgの人工衛星から、わずか500gのマイク取り付け金具になり、ケーブルへの負担が小さくなり、安全性もより高まりました。



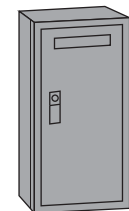
従来型：2.6kg



MHL-30：500g

2 制御盤は不要です

制御機能は巻上機のCPUが制御を行いますので、従来の制御盤は不要です。またAC100V仕様で一般電源からの施工が可能になりました。



従来型制御盤

→ 不要です

3 収納時のおもりは不要です

貫通滑車にケーブル繰り出し装置を持っているため従来型のように3点吊りをばらす際のおもりは不要になりました。また3点を組む際も一人で行うことができます。



従来型のおもり

→ 不要です

※取扱い上の注意 本システムは、基本的に人の頭上にマイクロホンを下げる物であり、大変危険です。設置及び使用に際しては、取扱説明及び設置マニュアルにそって十分な注意を払ってください。